VGC-3062（H）型　n連棟

建築面積	18.05 × n m²（5.46 × n坪）	（間口柱芯寸法）×（奥行柱芯寸法）

構造耐力上主要な部分の部材

部材名	形状	板厚	使用材料	有効細長比
前柱	ロ-85 x 115	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	70.0
後柱	ム-115 x 115	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	55.0
中柱（左右）	□-85 x 84	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	76.6
後柱（中）	□-85 x 84	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	74.5
前柱（中）	□-85 x 85	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	81.1
中柱（中）	□-85 x 85	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	78.3
梁補助柱	□-85 x 85	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	68.6
桁前	?-336.5 x 79	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
桁中	[-182.5 x 79	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
桁後	[-155 x 85	1.2mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC	
梁	I-310 x 114	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	
壁パネル	⌣-25 x 701(350.5)	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC	
ブレース	――	7.0φ	JIS G3101一般構造用圧延鋼材 SS400	
ターンバックル	――	7.0φ用	JIS A5541建築用ターンバックル胴 STKM	
アンカープレート	――	6.0mm 9.0mm	JIS G3101一般構造用圧延鋼材 SS400	

構造耐力上主要な部分以外の部材

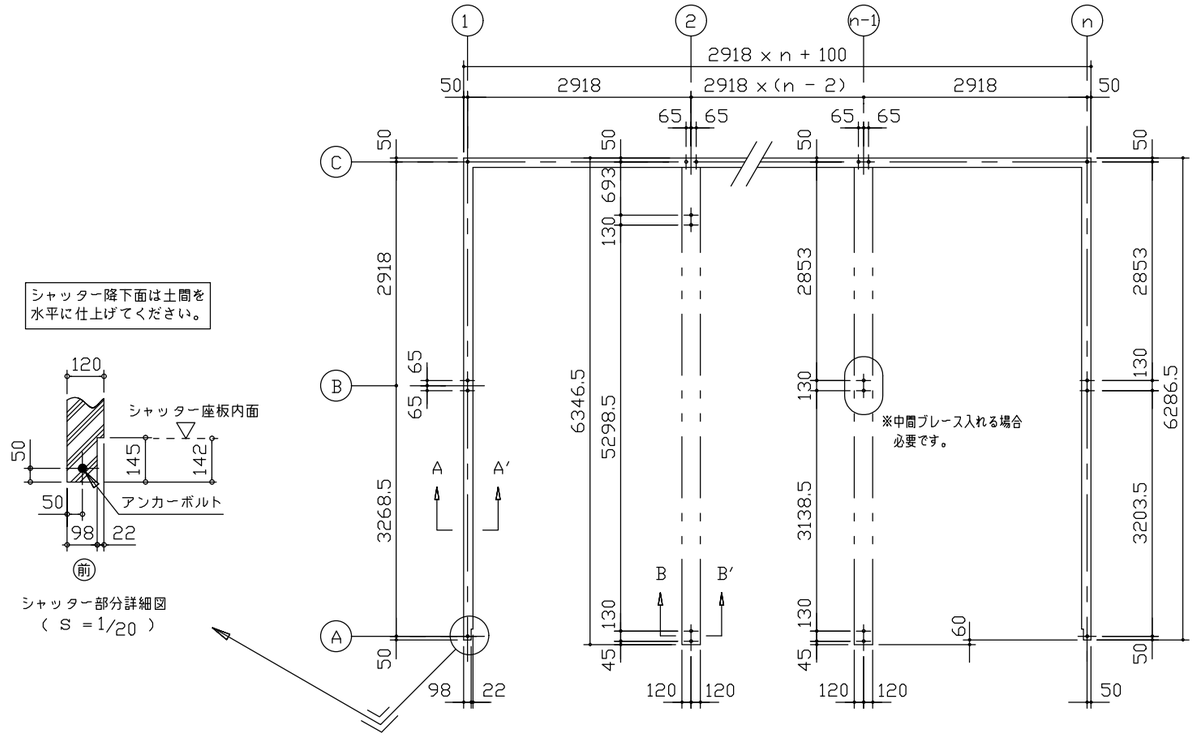
部材名	形状	板厚	使用材料
上枠	⌈-430 x 55	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
下枠	⊓-81 x 64	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
中柱カバー	⌣-26 x 145	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
間柱	⊏-31 x 24	1.2mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
屋根	⌇-88 x 600	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
シャッタースラット	(-14.5 x 71	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し前	C-130 x 113	0.6mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し後	[-122 x 48	0.5mm	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板（ツートンカラー）
ケラバ	⊏-130 x 135.5	0.5mm	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板（ツートンカラー）

・連棟する場合、強度上、下記条件で連結部に中間ブレース、もしくは間仕切りセットが必要になります。

一般地型（1200N/m²）

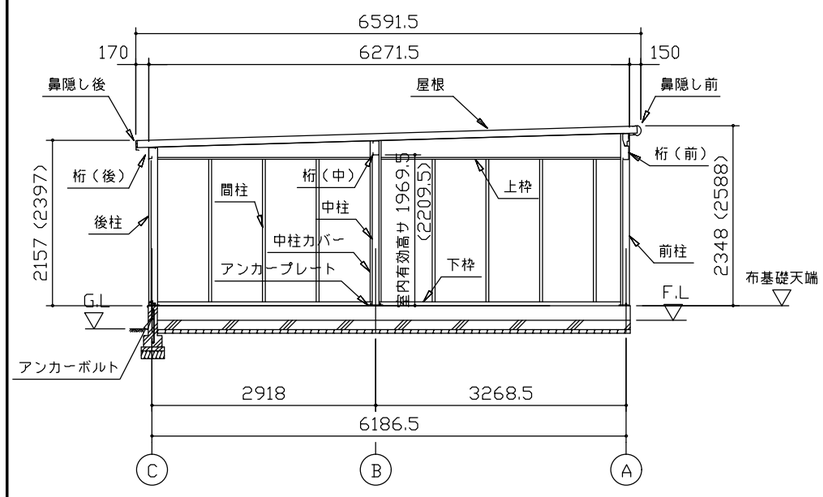
本体高さ	中間ブレース取付必要寸法
標準タイプ	間口10.57m以内に一ヶ所
Hタイプ	間口9.21m以内に一ヶ所

※風力(基準風速34m/s、地表面粗度区分III)による計算値

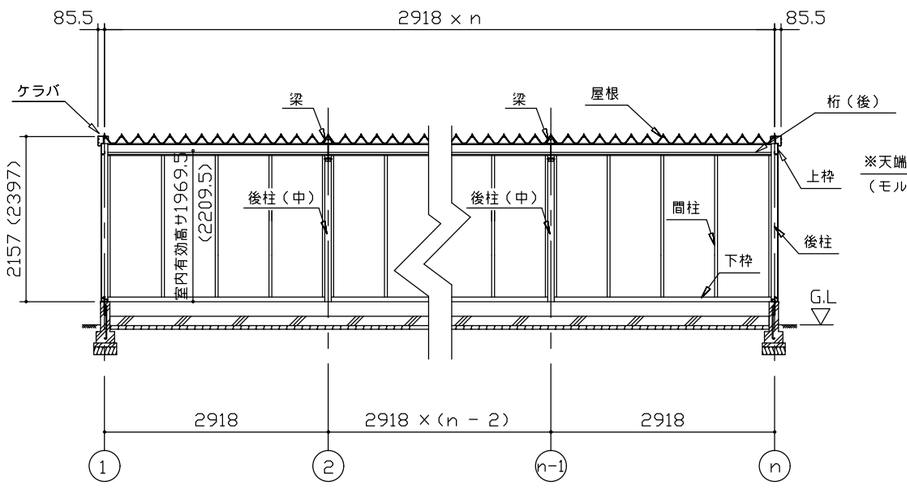


布基礎伏図　（S= 1/80）

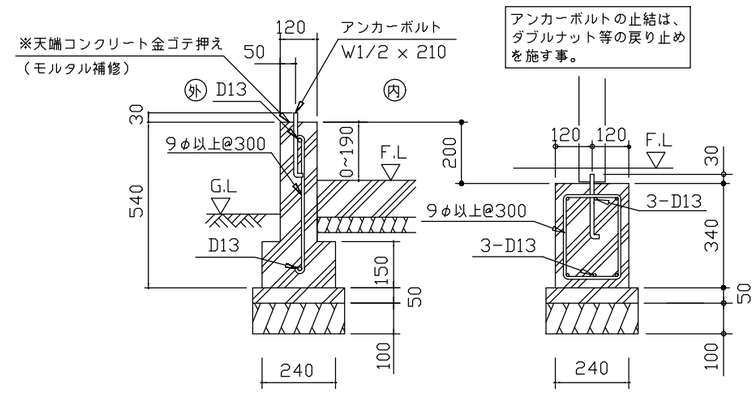
・布基礎断面図　縮尺=1/20
（地耐力　50KN/m²以上,コンクリート設計基準強度　18N/mm² 以上
基準風速 34m/s ，地表面粗度区分Ⅲ）
＜上記条件での参考図です。＞
注1）地耐力が 50kN/m² 未満（30kN/m² 以上）の場合は、地耐力に応じた基礎を設計して下さい。
注2）寒冷地の場合、凍結深度等を考慮し、実情にあわせて設計して下さい。
注3）その他現地の実情にあわせて設計して下さい。



側面断面図（S= 1/80）



正面断面図（S= 1/80）



A ～ A′断面　　B ～ B′断面

・（ ）内寸法ハ、Hタイプヲ示ス。
・有効高サハ、基礎高サヲ含ミマセン。

名称	ヨドガレージ ラヴィージュⅢ
機種名	VGC-3062(H)型（n連棟）

株式会社 淀川製鋼所

＜VGC-3062-N-B_2.DXF＞